

カーミージー周辺海域自然環境再生

カーミージーニュースレター 第1号

浦添市西海岸のカーミージー一帯は、古来より地域住民の生活の場、信仰の場として利用されてきました。そんなカーミージーの周辺海域では近年、一部のサンゴの死滅が確認され、また沖縄西海岸道路の開通によりアクセスが容易となったことで、来訪者の増加とともに海洋生物の乱獲も増加し、海洋生物の減少が課題となっています。浦添市では、これらの課題に対処するために、自然環境再生事業を立ち上げ、令和元年度に基礎調査、令和2年度に自然環境再生全体構想を、浦添市里浜保全活動協議会(以降協議会)とともに策定してきました。

そして自然環境再生事業の最終年度となる令和3年度は、自然環境再生全体構想で掲げられた目標であるサンゴ礁再生に向けたサンゴの植え付けを行いました。その他にも、カーミージーの周辺海域に流入するシリン川河口の濁り原因の調査、カーミージー周辺海域の保全活動について、主体的に継続実施していただける”人材の育成”を目的に意識啓発イベントを開催し、カーミージー周辺海域の自然環境再生に取り組んでいます。

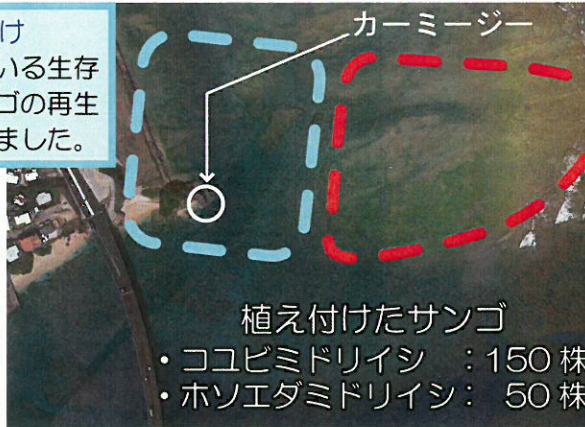


● サンゴの植え付けについて

サンゴの植え付けは、2箇所の範囲を設け、合計 200 株のサンゴを植え付けました。

経年的サンゴ植え付け

過去に植え付けの行われている生存率の高い海域で確実なサンゴの再生をめざし植え付けを実施しました。



サンゴ群集死滅範囲

サンゴが死滅した範囲で、新たな植え付け候補地となる場所を確認するために試験的に植え付けを実施しました。



サンゴの植え付け作業



植え付けたサンゴ

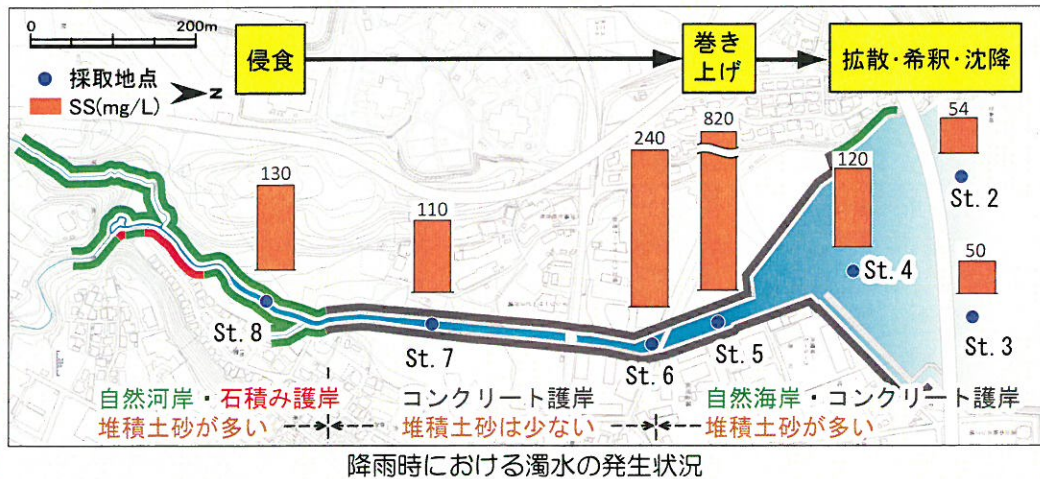


長期目標となる姿(コユビミドリイシ)

短期目標(3年後)	植え付けたサンゴの40%が生存し、3倍の大きさに成長する。
中期目標(5年後)	植え付けたサンゴの30%が生存し、5倍の大きさに成長する。
長期目標(10年～20年後)	10年～20年後に10センチ～数十センチに成長したサンゴ群体が点在し、サンゴ礁を棲み家とする多様な海洋生物が息する環境がみられること。目標達成には今後も植え付け等の取り組みを継続して実施していくことが必要。

● シリン川河口の濁りについて

協議会委員からシリン川の河口に土砂が堆積し、生態系に悪影響を与えている可能性があるとの指摘があったことから、シリン川河口の現状と、その要因を推定するための3つの調査を行いました。降雨時に発生する濁りの原因を調査したところ、上流から流れてきた雨水が、河岸の堆積土砂を削りながら濁っていき、さらに河口手前 (St.5) で河床の堆積土砂を巻き上げてより高濃度となってシリン川河口に流れ出ていることが分かりました。



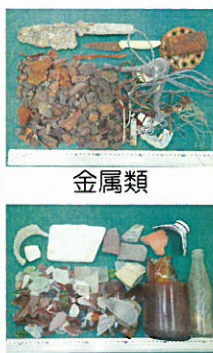
その他にも、河口における堆積土砂による影響の実態調査、有機汚濁（硫化物）の調査を行いました。

● 意識啓発イベントの開催について

意識啓発イベントは、申し込み頂いた浦添市民 (23名) に対して「漂着ごみ調べ」と「生き物調べ」の体験学習会を実施しました (R3.10.23)。

漂着ごみ調べ

漂着ごみ調べは、カーミージー周辺の砂浜でごみの回収を行い、集められたごみを素材毎に分別して集計を行いました。回収されたごみの中で一番多かったのは「飲食用の容器・袋類 (プラスチック製)」でした。このことから、身近なごみが海に流れ出ていることが分かりました。



生き物調べ

生き物調べは、自然海岸と人工海岸の2つの環境で行いました。自然海岸 (2 地点) で確認された生き物は平均で 10 種類でした。また、人工海岸 (4 地点) で確認された生き物は平均で 5 種類でした。この生き物調べの結果は、調査を行った地点が今後どのように変化するかを観察する基礎資料となります。

